

## 取組み事例② 愛知県武豊町 憩いのサロンの展開 (1)

事業イメージ：元気でない人も含めた多くの人に参加してもらえる事業とすること

町が主体的に決めてボランティアを募る  
トップダウンによる**モデル重視型**

にするか

- ・最初の盛り上がりは起きやすい
- ・これをやってください、と頼むほうが人は集まりやすい
- ・10年間続くだろうかという不安

住民組織による地域課題の話し合いで  
活動を行うボトムアップによる  
**プロセス重視型**

にするか

- ・時間がかかる
- ・地域の課題を考えると意識づけが大変
- ・町の担当としてはモデル重視型のほうが無難

平井寛：介護予防におけるポピュレーションアプローチの試み。地域リハ4（1）～（6），2009

### 解説

■地域全体へ介入するポピュレーション戦略には、モデル重視型、プロセス重視型、そしてハイブリッド型がある。  
・モデル重視型は、行政側の専門職が地域診断などに基づき活動の内容を定め、そこにボランティアを募るタイプ。

・プロセス重視型は、住民が主体となって地域課題を議論し、住民の話し合いで課題を絞り込み、ボトムアップにより活動を定めていくタイプです。

■いずれにも、長所短所がある。

・モデル重視型は、事前に方向性を定めて行うため、最初の盛り上がりは起きやすい。また、こんなことをしなすと示した方がボランティア集めはやりやすい。ただ、トップダウン型で10年間続くだろうかという不安も。

・プロセス重視型は、予めこんな活動をしなすと明示しないため、活動が動き始めるまでに時間がかかる。地域の課題を考えてくださいという投げかけを真剣に考えるための動機づけが必要。行政側としてはモデル重視型に比べ不安の大きいやり方。ただ、最初のハードルは高いが、うまく動き始めれば長続きしやすい。



## 取組み事例② 愛知県武豊町 憩いのサロンの展開 (2)

町が主体的に決めてボランティアを募る  
トップダウンによる**モデル重視型**

にするか

住民組織による地域課題の話し合いで  
活動を行うボトムアップによる  
**プロセス重視型**

にするか

議論を  
重ねた



続いていくものなのでプロセス重視型が理想だが準備期間が長く、**目途が立たない。**  
交流事業になるかどうかかわからず、プロセス重視型は町に適さない。

モデル型で開始し、プロセス重視型に移行する  
**「ハイブリット型」**に事業計画が完成

平井寛：介護予防におけるポピュレーションアプローチの試み。地域リハ4 (1) ~ (6), 2009

解説



愛知県武豊町では、最初はモデル型で活動をスタートさせ、徐々にプロセス重視型に移行するという、いわばハイブリッド型の戦略を採用し、成果を上げた。

## 取組み事例② 愛知県武豊町 憩いのサロンの展開 (3)

ボランティア募集を目的とした住民説明会開催 → 62名参加 説明会終了後 52人が参加表明

第1回ワークショップ KJ法で。こんな町にしたい、こんな活動がしたい、と多くの意見が出た。

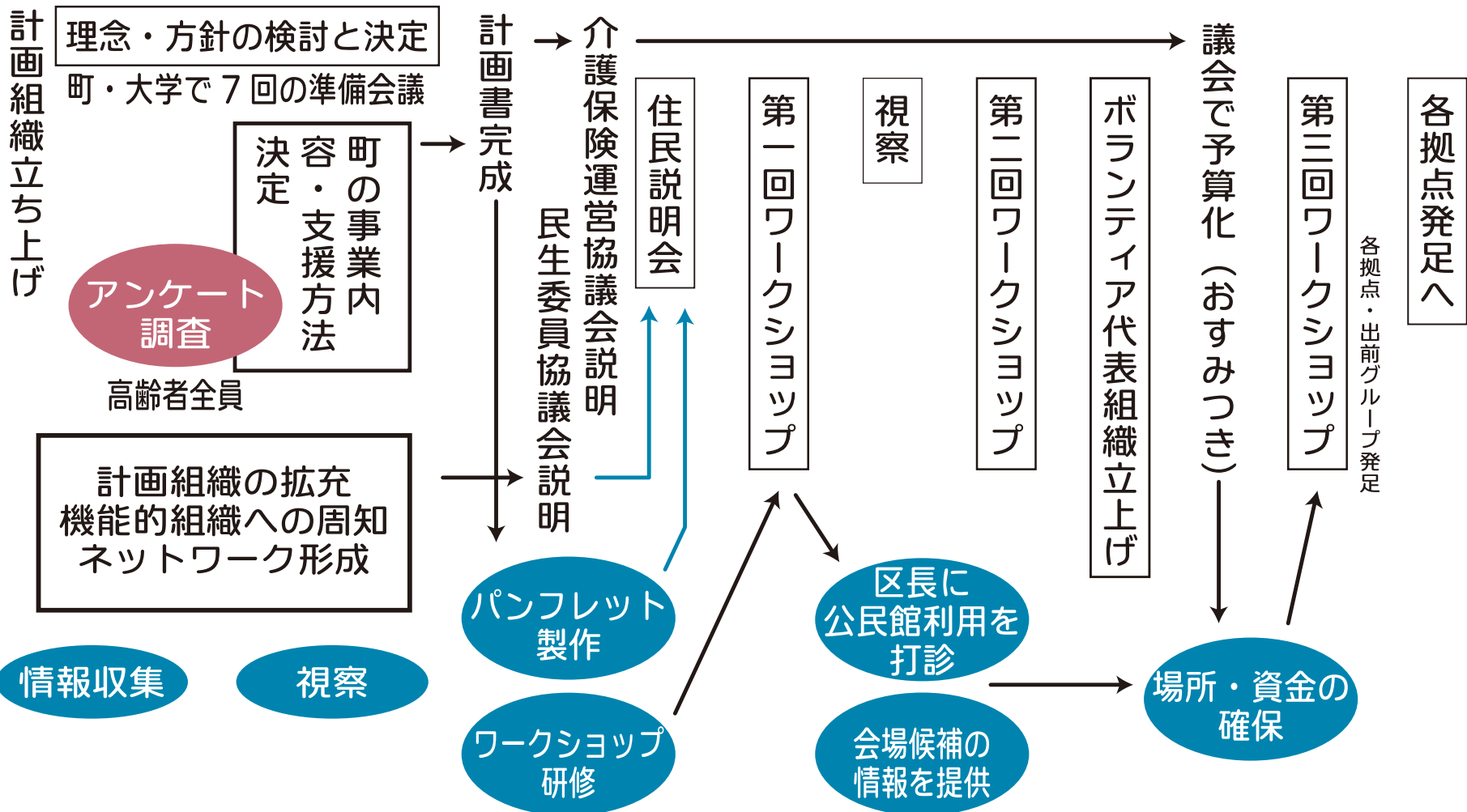
日付	会議・視察	内容	結果（決定事項・感想・意見など）
12月 中旬～下旬	先行事例視察	「はびいわん」(常滑市) 見学	たたき台となる活動イメージを持たせた活動のリーダー、ボランティアに関心した。励まされた。
12/26 1/22	ワークショップに向けた打ち合わせ	第2回ワークショップの運営の仕方、グループの分け方について検討	内容別のグループか場所別のグループにするか両方を提案することを決定
1/29	第2回ワークショップ	事業の具体化に向けた検討課題の抽出	抽出された検討課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催場所</li> <li>・活動頻度・時間帯と内容</li> <li>・町の事務</li> </ul>
2/7	第1回準備委員会	ワークショップで抽出された課題の検討	準備委員顔合わせ・自己紹介
2/20	先行事例視察	「岩滑地区サロン」(半田市) 見学	飲食物の提供について困難性の理解活動を始めていくことが必要
3/1	第2回準備委員会	ワークショップで抽出された課題の検討(場所の検討)	地区別のニーズ・リソースのデータを参考に候補地を3箇所に絞る
3/7	第3回準備委員会	開催候補施設視察	候補施設のいっち・設備の確認
3/14	第3回ワークショップ	各チームの活動概要発表	候補地を提案 拠点別チーム結成 活動概要を決定
3月末～5月	チーム別協議	開催に向けた準備	活動内容の詳細決定
5/11	第4回ワークショップ	各チームの活動メニューの発表	オープンセレモニーの内容 第2回以降の活動内容について
5/27	大足会場開所	オープニングセレモニー	参加 161名
6/19	上ヶ会場開所	オープニングセレモニー	参加 150名
6/21	玉貫会場開所	オープニングセレモニー	参加 153名

## 取組み事例② 愛知県武豊町 憩いのサロンの展開 (4)

### 武豊町での計画組織立上げから開所まで

計画から拠点発足まで 1 年半。ボランティア組織立上げは 4 か月。  
2006 年 2007 年

2月 6月 9月~10月 11月 12月 1月 2月 3月 5~6月



## 取組み事例② 愛知県武豊町 憩いのサロンの展開 (5)

### 解説



- ボランティア主体の事業が動き始めるために武豊町ではおよそ 1 年半の準備期間を要した。
- ・ 2006 年 11 月の第 1 回のワークショップで「こんな町にしたい、あんな活動がしたい」との意見を受けて、2007 年 1 月の第 2 回ワークショップの頃から、町内の 3 地区でサロンが立ち上がるまで（5 月から 6 月）の半年間。この期間は地域の課題や資源によって大きく異なる。
- ・ プロセス重視型の場合、目標を定めておくことは必要だが、この会で決めるとか、いつまでに決めるとかにあまりとらわれずに、無理せずできる範囲から始めていくという、柔軟性も必要。

### 参考情報

- トップダウンのモデル重視型による準備運動。
- ・ 武豊町では、2006 年 2 月から 9 月に町と大学による 7 回の準備会議を行った。
- ・ 2006 年 6 月には町の高齢者全員にアンケート調査を行い、「閉じこもり」の実態や「サロン事業」等へのニーズを調査。
- ・ 同時にボランティア活動への協力者を募り、2700 人の回答者のうち 500 名以上から「協力してもよい」という回答。
- ・ 行政や研究者が行った先行事例の視察から、「資金、場所など立ち上げ時のハードの整備・支援は行政が行い、ソフトは住民が行うのがよい」との方向性も把握。
- ・ 2006 年 10 月にサロン運営ボランティア募集を目的とした住民説明会。
- ・ 町の考える事業の説明やデータを基にした事業の意義を説明したところ、集まった 63 人の内なんと 52 人から事業への参加協力表明。
- ワークショップを期にプロセス重視型による準備活動。
- ・ この後、第 1 回のワークショップ（2006 年 11 月）、また、この表にある第 2 回のワークショップ（2007 年 1 月）を経て、プロセス重視型の活動に移行。